

パウロ

2011/11/20

シリーズ～弟子道～

律法学者・迫害者

- 第2世代の弟子たちの代表格
 - － 初代教会における最大の功労者
- 外国出身でエリート律法学者だった
 - － タルソス(今のトルコ南部)出身, ガマリエル門下のファリサイ派
- 教会を敵視し, 激しく迫害した
 - － ステファノが殉教したとき, これに賛成し, 暴徒たちの上着の番をした
 - － 「わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。」＜ガラテヤ1:13＞

迫害者から宣教者へ

- 弟子を捕縛するためダマスコに赴いた時、イエス様に語りかけられ回心した

– 「旅を続けてダマスコに近づいたときのこと、真昼ごろ、突然、天から強い光がわたしの周りを照らしました。わたしは地面に倒れ、『サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか』と言う声を聞いたのです。『主よ、あなたはどなたですか』と尋ねると、『わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスである』と答えがありました。」＜使徒22:6-8＞

- バルナバの執り成しによって弟子の仲間入りを果たし、異邦人伝道の命を受けた

– 「主は言われました。『行け。わたしがあなたを遠く異邦人のために遣わすのだ。』」＜22:21＞

- 3度の宣教旅行を行い最後はローマに行った

パウロの宣教旅行



数々の困難を乗り越えて

「キリストに仕える者なのか。気が変になったように言いますが、わたしは彼ら以上にそうなのです。苦勞したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。」

<2コリント11:23-27>

教義の確立

- イエス様の死と復活の意味
 - 「イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。」＜ローマ4:25＞
- 行いではなく信仰によって義と認められる
 - 「なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。」＜3:28＞
- 「教会」とは
 - 「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」＜エフェソ1:23＞
 - 「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。」＜4:16＞

キリストの価値

「わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。」＜フィリピ³:5-8＞

キリストとの一体感

- キリストの愛からは引き離されない
 - 「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」＜ローマ8:35＞
- 「キリストに結ばれている」“in Christ”
 - わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。」＜エフェソ3:12＞
- 「ために」でも「ともに」でもなく
 - わたしにとって、生きるとはキリストであり、死ぬことは利益なのです。」＜フィリピ1:21＞

パウロに見る弟子道

- 氏素性, 性格, 賜物, すべてを師のために
 - 「御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるように。」＜ヘブライ13:21＞
- 師と共に苦しむ喜び
 - 「つまり、あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、**キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。**」＜フィリピ1:29＞
- まだ見ぬ師に合うために
 - 「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって**上へ召して、お与えになる賞**を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」フィリピ3:14